

Brave hearts

紹介 & 事業説明 (ENG-FESTIVAL)

brave hearts
代表

佐藤 謙成

2024年4月21日

外国人との英語ディスカッションを通して、日本の小中学生の英語力向上と問題解決能力育成、そして外国人の社会参画促進を目指す。

1. 団体の紹介
2. 背景
3. 事業コンセプト
4. 事業に求められる条件
5. 事業の詳細
6. 実施会場

BRAVE HEARTSとは？（団体概要）

- 多文化共生社会の実現を目指す。
- 外国人の社会参画を支援する。
- 社会課題を見つけて、その解決の糸口を探す。
- 日本人学生の英語力の抜本的強化を目指す。

英語を使ったディベートの実施

背景

1

グローバリズムの 到来への順応

近年の日本では、外国人の社会参画を促進する政策が多々見られるが、地域事に焦点を絞ると依然として、社会参画に障壁がある。

2

日本人学生の英語 力の抜本的強化

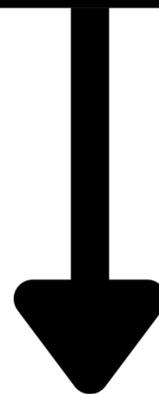
現在の日本では、書面上での英語力向上は教育で行われているが、環境的背景により実際にコミュニケーション能力を鍛えられない。

3

外国人の間接的な 社会参画

外国人の政治的、社会的参画は障壁があるように見受けられます。そのため、外国人が考える課題を政策に反映できず、解決しない。

**グローバルリズムに順応できる学
生を育成して、外国人が住みや
すい日本を作る。**



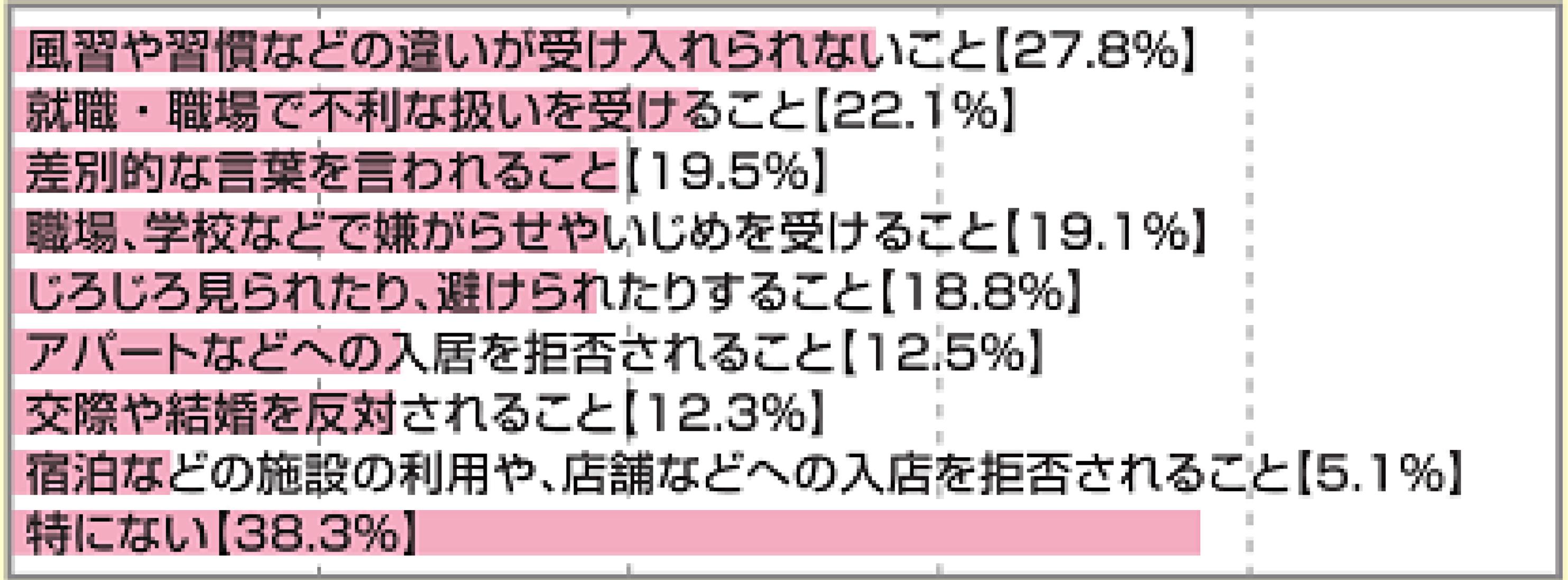
名称“ENG-FESTIVAL”と提案します

●内閣府「人権擁護に関する世論調査」(令和4年8月調査)から

あなたが、日本に居住している外国人に関し、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、人権問題だと思ったことはどのようなことですか。 複数回答(%)

内閣府「人権擁護に関する世論調査」(令和4年8月調査)より

0 10 20 30 40 50



なぜ英語を使うのか。

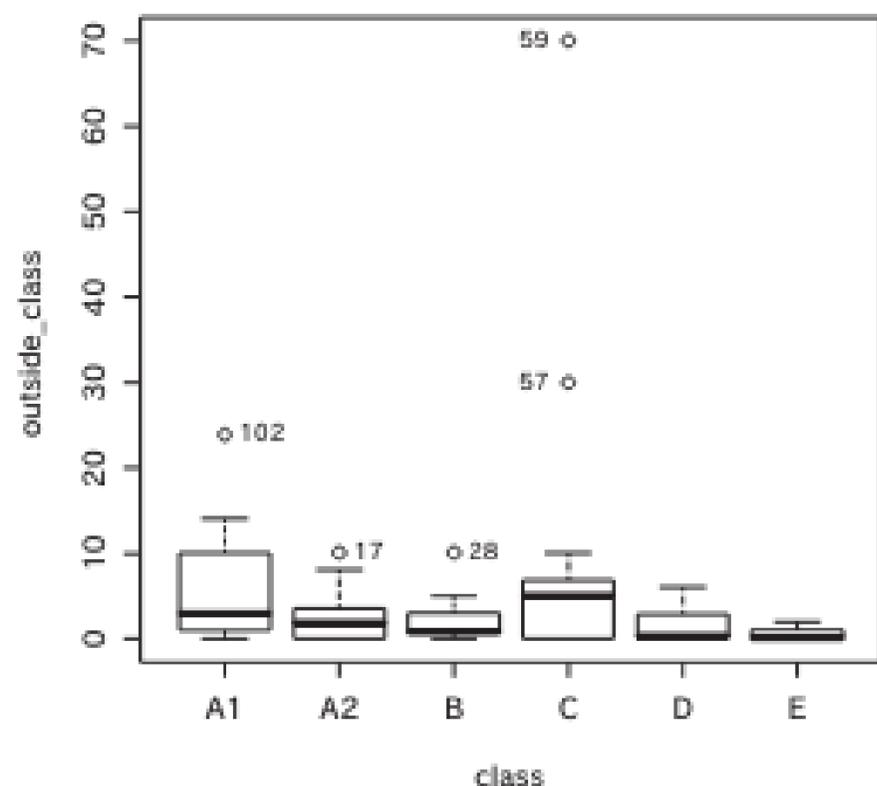


図 10：日本人学生の授業外での英語使用時間数

また、デジタルハリウッド大学の研究ノートではこのように述べられている「各クラスの日本人学生の授業外での英語使用時間数を表す。A1・A2・B・Cクラスの学生の中央値はD、Eクラスの中央値である0時間より大きいことがわかる。」1) このことから、学生の大変は英語を話す機会がない事が分かる。

加えて、「授業外の英語使用頻度と英語能力判定試験のスコアの関連を検証したところ、日本人学生が**英語授業外で英語を使用することは英語能力判定試験のスコア向上に関連する**ということが検証された。」2)

||

すなわち、英語を話す事ができるプラットフォームを提供することで、グローバル社会に適応できる人材の育成に貢献できるのではないのでしょうか。

1)江幡（山田） 真貴子,“デジタルハリウッド大学の日本人学生の英語力の背景”研究ノート, https://msl.dhw.ac.jp/wp-content/uploads/2020/11/DHUIJOURNAL2020_P027.pdf (2024年4月29日参照)

2)江幡（山田） 真貴子,“デジタルハリウッド大学の日本人学生の英語力の背景”研究ノート, https://msl.dhw.ac.jp/wp-content/uploads/2020/11/DHUIJOURNAL2020_P027.pdf (2024年4月29日参照)

事業コンセプト

近年、グローバル化によって日本社会の多様性は急速に高まっている。その一方で、外国人に対する差別や偏見、ヘイトスピーチなどの問題も深刻化していると考えます。(図一)

このような状況を踏まえ、当団体は「多面的視野を育むディスカッション・プロジェクト」を実施することで、以下の2つの事業目的を達成することを目指します。

- 外国人の日本社会への参画を促進
- グローバル社会に対応できる人材を育成。

この2つの目的を達成するために、「人権侵害の是正：ヘイトスピーチ」をテーマにディスカッションを行い、組織内で解決の糸口を見つけ、政府や自治体に提言し、組織内で解決可能な場合は解決策を模索・支援します。

ディスカッションは英語で行われるため、日本人参加者は英語でのコミュニケーション能力と問題解決能力を補完的に向上させることで、組織全体として「グローバル社会に対応できる人材の育成」という役割を果たすことができるであろうと考えます。

**日本における外国人の
社会参画の促進**

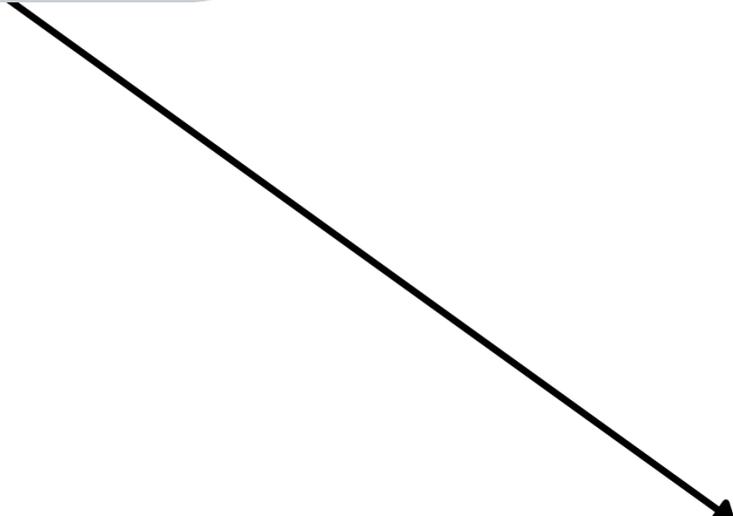
**グローバル社会に対応
できる人材育成**

事業コンセプト2

対象となるターゲット層

- 日本人高校生、大学生、専門学校生
- 外国人高校生、大学生、専門学校生
外国人労働者

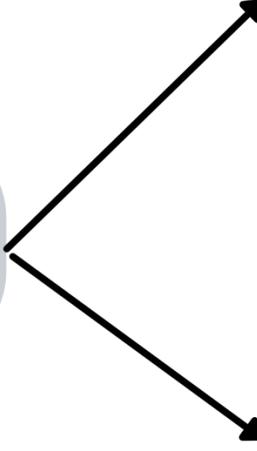
議題内容の制定
調査



ディスカッション



結論の検証



政府や自治体への提言

団体内での解決取り組み

事業に 求められる条件

弊団体が、事業を展開していくときに懸念しなければならない点は何点かあります。一つ目として、「参加者の安全性の担保」です。弊団体が企画しているディベートは、不特定多数の外国人と日本人学生の交流となるため、安全性を担保しなければなりません。続いて二つ目としては、「意見を出しやすい環境作り」を促進する事です。ディスカッションでは、相手の話を聞く力。そして、意見を話す力。という二点は必要不可欠であると考えます。これに加えて、人の心は影響を受けやすい事に留意して環境作りを目標とします。

安全性の担保

環境作り

1 安全性の担保

当団体では、親御様や関係各所からの信頼性の向上及び良好な関係を維持することに加えて、学生の安全な発達ができるよう、最重要事項として取り組みます。

具体的には、google アンケートを使った簡易的な、身元情報の把握を致します。加えて、教室内には弊団体のスタッフが、監督として見回っております。

2 発言し易い環境作り。

弊団体では、英語での意見交換を軸に行っており、「発言しやすい環境作り」は命題であると考えています。発言しやすい環境作りを推進するために、弊団体のスタッフが参画する時”スタートダッシュ”が肝であると考えています。

そのため、事業開発時に弊団体からの説明の時間を頂いてその時に参加者からの合いの手として、拍手や声掛けを求めます。この事から、環境内の雰囲気、明るくなり話しやすい環境ができると考えています。



安全性の担保

詳細

当団体では、従業員全員での監督によって、外国人や学生の安全を守るとともに、応募者の身辺調査をする事で安全性の確保に努めます。

発言しやすい環境作り。

詳細

弊団体では、意見交換の重要性を認識しております。そして、環境作りは事業開発時の雰囲気大切です”スタートダッシュ”の観点から、弊団体スタッフが事業開発の際に説明の時間を設け、その際に「拍手」や「掛け声」が出るように工夫いたします。



実施会場

会場

神奈川県横浜市港北区新横浜3-16-15 新横浜磯栄ビル6F-B号室

規模

規模

20名

ご検討のほど
よろしくお願
いいたします



佐藤謙成

BRAVE HEARTS 代表

bravehearts.study@gmail.com